

ご父兄（後援会会員）の皆様へ

東北大学医学部後援会会長

舟山 真人

今年 4 月で、わが医学部後援会も発足 1 年目となりました。昨年、新入生のご父兄の皆様向けに原稿を書いたのもつい最近のようで、年を重ねるとそれだけ時の流れが速く感じるのですが、私もそうかと焦りの日々を過ごしています。

さて、「若い」後援会にとっては十分な時間がありますので、学生さんにとってこういったものが役立つのか、喜んでもらえるのか、学生さんを通じて皆様といろいろ考えていきたいと思っています。

昨年は、発足当初ということで手探りながらも、研究報告会など、学生さん向けにいくつかサポートを行ってまいりました。今年はいよいよ多くの学生さんを対象とした本格的な活動が始まります。4 月初めには早速、医学科・保健学科で行われた新入生向けのオリエンテーション、そして、医学部課外活動（いわゆる部活）への助成を行いました。

また、7 月末に行われるオープンキャンパス（全国の大学の中で、本学のもののが最も評判が良いと聞き及んでおります。）にも援助を考えています。ここでは学生さん達が当日をどう運営するか、かなりの範囲で自主的に計画するようです。多くの先輩達はとても有意義であったと話してくれます。特に、今回は医学部長が学生さん向けに、想い出

になるような記念になる品物を考えていらっしゃるのを楽しみます。

ちなみに、学生さんが参加する学内行事や学外イベントの中には、大学経費では支払いが難しい品目もあります。後援会においては教育環境の充実はもちろんのこと、学生さんに直接役立つようなものへの援助もできればと考えています。

施設面では、保健学科棟の改修も一段落しました。この一角に新しい CT 装置が入り、早速 A i（オートプシー・イメージング）という新しい試みが始まりました。小説の世界が現実のものとなってきており、関連分野の講義では、この最新の話が聞けることでしょう。こういった話題についても、本会報を通じて逐次ご紹介していきたいと思っています。

医学部後援会は、このように教育・研究活動や課外活動の支援、また、ご父兄の皆様への学生生活に関連した広報など、いろいろな事業を計画しています。そして、このような事業の中でご父兄の方々と大学との連携を深め、医学部のますますの充実・発展を目指したいと思いますので、よろしくご支援のほどお願い申し上げます。



医学部 1 号館前の桜（21.4 上旬）



図書館での閲覧の様子

平成 21 年度新入生を 迎えるにあたって

東北大学医学部長・医学系研究科長
山本 雅之



東北大学医学部に入学された新入生諸君、ご入学おめでとう。ご父兄・保護者の皆様、杜の都仙台は住みやすく、また、文化の溢れる街ですので、ご子息の学業を安心して見守ってください。この機会に、医学部後援会の会員各位、また、新規に後援会にご加入いただいた皆様に、一言ご挨拶を申し上げます。

本医学部は、「仙台藩養賢堂」にルーツを持ち、1872（明治5年）年5月に宮城県立医学所及び私立共立社病院として改組・発足しました。それ以来、すでに138年の歴史を重ねています。仙台の街に根を下ろして、東北地方住民の健康を守ること。また、学術の振興を通して東北地方の優れた文化を世界に向かって発信することに邁進してきました。

東北大学は、「研究第一主義」、「門戸開放」、そして「実学尊重」を合言葉にしています。本医学部と医学系研究科は、これらのミッションを遵守し、業績を積み重ねて、未来に向かって着実に進歩しています。多くの素晴らしい研究成果や医療実践経験などが、この星陵キャンパスから国内・外に発信されています。

さて、一人前の医師や看護師、検査技師、医学研究者を育て

るのは、決して容易な事業ではありません。医学部学生（「医師や看護師、検査技師、研究者の卵」）は、応援してくださる家族や住民の皆様に支えられ、かつ、鍛えられて、初めて一人前になっていくのです。私たちは医学部の学生に、東北大学のミッションを理解し、「知的存在感のある科学立国」を目指す21世紀日本の「国の礎」となるべく、勉学に励むことの大切さを訴えています。

折しも、21世紀は生命科学の時代といわれ、iPS細胞に代表される最新の研究成果が、私たちの医療実践に応用される日がそれほど遠くないことが予感されます。一方、「医療崩壊」が公に議論されるほど、医学と医療を取り巻く情勢に危機が迫っています。

本医学部の学生は、入学後に始めて、医学という学問とその実践である医療への世界の入口に立ち、多くの先輩達が苦闘した未知の世界の探求に乗り出すのです。想像力を磨き、かつ、身体を鍛えて、大いなる可能性を秘めた医学研究・医療実践への道を歩み進んで欲しいと希望します。ご父兄の皆様には、これから始まる医学部学生の勉学に対する温かいご支援を心からお願い申し上げます。



入学記念祝賀会あいさつ（21.4.7）

医学部医学科の カリキュラム改訂について

医学系研究科医学教育推進センター教授
金塚 完



現代の医学・医療を取り巻く環境は大きく変貌し、これが医学教育にも強く影響しています。「患者－医師関係」は社会の意識変化に伴い一変しました。

疾病構造は感染症などの急性疾患から、高血圧・糖尿病などの慢性疾患に移行し、医学の発達には医学生に求める知識を指数関数的に増やし、かつ、現在の知識が10年程度で否定される状況を創りました。これらを背景に医学教育は世界的に大きな変革を求められ、本邦では欧米の教育に倣った教育技法を性急に導入する動きがおきています。しかし、このような状況では、方法論からの変革ではなく医学教育の基本姿勢を考え、これを起点に教育の改革を進めることが重要です。

東北大学医学部医学科のカリキュラム改訂では、基本姿勢を考える上で、次の二点が重要でしょう。

第1に本学が建学時より掲げてきた「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」第2にプロフェッショナルな医師の育成とい

う観点です。加藤 良太朗氏（ワシントン大医学部）の文章を借りればプロフェッショナリズムとは『医学界と社会との契約であり、医学界が相当の医学的な専門知識や技術を、患者の利益のために提出することを約束する代わりに、社会から「医療の独占」と「セルフ・レギュレーション（自己調整）」という2種類の自律を許されている』のであり、社会はプロとしての医師に『学術的なもの（専門知識や技術）と道徳的なもの（誠実性や利他主義）』を求めているとされます。これらから基本姿勢を考えると、1）高い倫理観と医師としての明確な目的意識、2）自ら問題を発見し、解決できる柔軟な思考力と実践的能力、3）患者の利益を守るに必要な正しい知識・技術・態度を自ら探求し学ぶ心などの主要な目標が見えてきます。

現在進められているカリキュラム改訂は、ほぼこの基本姿勢に合致します。具体的な内容を少し述べます。

1 学年では、受動的学習から自ら考え学ぶ能動的学習への転換が図られつつ、医師の倫理観や動機を高めるカリキュラムが実施されます。約3週間にわたる医学修練一次で、医療に関連する問題を取り上げたグループ学習、患者遺族との対話と討論、医療者に必要なコミュニケーション技法や基礎的手技演習、医療現場の実体験などを通して、医師の倫理、動機、人を思いやる態度などを学びます。その後に医学研究、国際医療、家庭医療など、様々な分野の第一人者と双方向授業（動

機付け学習)が行われ、医師としての自覚と将来のキャリアを見据えつつ動機を高める企画が設けられています。

2学年には自らが問題を抽出し解決してゆく企画(Advanced Science Course, Workshop for Tackling Question)が設けられ、学生はこの時点から基礎医学、医学と個人、医学と社会などの様々な分野、または他分野との境界領域の問題を考え解決に向けて、少人数グループのトレーニングを受けます。

3学年では、実践研究の入門学習(基礎医学チュートリアル)を経て、医学科の基礎・社会医学の様々な講座に所属し、約4ヶ月にわたり研究活動とその成果の発表を行います。

4学年は臨床に必要な知識の習得と、臨床実習(5学年以上)への準備期間に当たりますが、現在、分散された授業の統一性や臨床実習への連続性を考え、改訂が進められています。臨床実習は2年前の全面的改訂を経て、実効的な臨床技能習得に向けた全体構成となり、昨年度からは個々の実習形態に関する討論会が開催されて毎年改良が重ねられています。これらが現在進められているカリキュラム改訂の概略です。今後は共用試験、国家試験、臨床研修などの制度が変化する可能性が高く、継続的に改訂を進めてゆく必要があります。

医学系研究科保健学博士課程 設置の概要について

医学系研究科副研究科長・副医学部長

進藤 千代彦

平成20年4月に修士課程が開設され、修士課程の学生さんが研究を進めているところですが、学年進行で平成22年4月からの保健学専攻博士課程の新設を目指して、設置計画書を文部科学省に提出し申請を行っているところです。

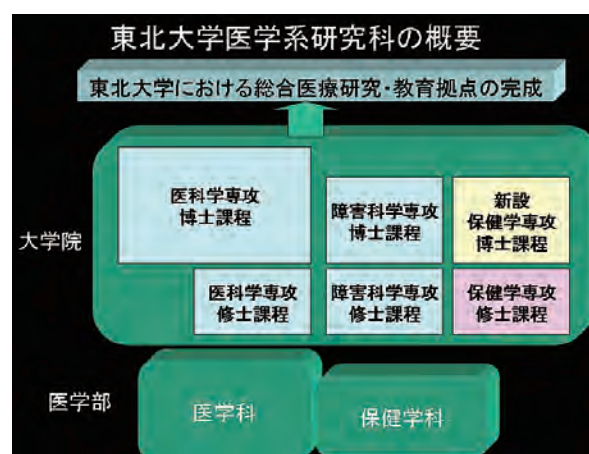
この博士課程は、2年間の修士課程に続く3年間のコースです。この課程を修了しますと看護学コースは「博士(看護学)」、放射線科学技術コースと検査技術科学コースは「博士(保健学)」を取得することができます。4年制の保健学科に続いて、修士課程(前期)までの6年一貫教育ととらえながら、さらに博士課程(後期)ができることで、かねてから望まれていた大学院がいよいよ完成することになります。参考図における、新設の部分が今回申請をしているところになります。

博士課程の設置は、日本において特に東北地方において、看護師における看護学博士の取得者や、診療放射線技師、臨床検査技師において保健学博士の取得者が極めて少ないことによる、強く人材育成を望む社会的要請とともに、総合大学であるところの東北大学において、修士に続く博士課程を設置し、看護学、保健学の研究拠点を確立しないといけないという学問的要請が背景にあったことによります。

博士課程の概要は、おおよそ次のようになります。修士課程における看護学コース、放射線技術科学コース、検査技術科学コースの3コースの構成はそのまま継続されます。入学定員は3コース合せて10名です。履修内容としては、1年次は共通

必修科目、共通選択科目、専門科目から8単位以上を修得し、同時に研究計画の立案、倫理委員会の承認を経て、2年次には、研究活動とTA・RAとして活動し、2年次の後半に研究の進捗状況を検討する目的で中間発表会が設けられ、3年次には、研究活動の継続とともに、論文執筆、論文投稿を行い、学位一次審査、学位二次審査を経て合格すると、学位が授与され修了することになります。共通必修科目(2単位)、共通選択、専門科目から6単位以上、学位論文にあたる特別研究は8単位で、博士課程修了単位は計16単位となります。

本博士課程が設置されたあかつきには、高度学位を目指す多くの学生の積極的な入学を期待すると同時に、博士号取得後は病院、企業、官公庁における指導的立場に従事していただくのみならず、教育者・研究者として活躍していただき、日本の看護学、保健学を牽引していくような人材になっていただきたいと考えております。



参考図：保健学専攻博士課程の配置

医学部 A0 入試合格者との懇談会開催 について

医学部医学科長 柴原 茂樹

医学部保健学科長 吉沢 豊子

平成21年度医学部A0入試合格者との懇談会を去る、2月28日(土)に開催しました。

この懇談会は、平成20年より次の趣旨で開催しております。

☆キャリアパス支援の一環として、早期に医学部教育や大学院進学制度等を説明する。

☆入学前に課題を与え継続した学習を促す。

なお、平成21年4月入学者より、保健学科の合格者も含め、医学部全体として行うこととなりました。

最初に、医学部大会議室において、医学科と保健学科の合格者が集合し、山本医学部長から挨拶が行われた後に、学科ごとに別れて教員・大学院学生との懇談会を開催しました。

医学科においては、昼食を取りながら自己紹介・歓談を行い、学部教育・大学院教育について説明しました。特に、MD-PhD コースを紹介し、将来、東北大学を担う医学研究者・医師を目指して欲しい旨の説明がありました。また、大学院学生より医学生時代の体験談や研究活動などについて懇談を行い活発に意見が交換され、新入生に対して良い刺激を与えることができました。

保健学科においては、保健学科大会議室において全体説明や大学院学生による研究紹介などが行われた後に専攻ごとに分かれて昼食を取りながら懇談会（質問コーナー）を行いました。懇談会では大学院学生を交えて研究活動や学生生活などに話が弾み、予定時間を過ぎても終わらないほどで新入生にとって大変有意義な企画となりました。



懇談会の様子



学部長挨拶



大学院生との懇談会

医学部新入生オリエンテーションを実施しました

医学部医学科長 柴原 茂樹
医学部保健学科長 吉沢 豊子

平成 21 年 4 月医学部に入学した新入生のためのオリエンテーションを次のとおり実施いたしました。

● 開催日時

医 学 科：4 月 9 日（木） 9：00～18：00

保健学科：4 月 8 日（水）10：00～15：30

● 実施内容

医学科においては、午前中に教育カリキュラムなどに関する説明を行い、アドバイザー教授と昼食を取りながら懇談しました。また、午後からは在校生より推薦された、運動学分野の永富 良一教授、放射線腫瘍学分野の山田章吾教授から特別講演をいただきました。最後に、在校生によるサークル紹介を行いました。

保健学科においては、午前中に全体説明会を行った後、午後には看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻それぞれのオリエンテーションを行いました。専攻ごとのオリエンテーションでは、初めての試みとしてチューター教員と新入生との昼食懇談会を実施しました。晴天に恵まれて桜の木の下で昼食を取るグループもあるなど懇談会はなごやかに行われました。

今年度は医学部後援会から昼食代などの御援助をいただき、おかげをもちまして新入生と教員の距離も縮まり、緊張していた新入生もリラックスできたようで有意義な時間を過ごすことができました。



医学部医学科謝恩会の報告

医学科謝恩会幹事代表

磯村 彰吾

平成 21 年 3 月 25 日（水）に医学部医学科の謝恩会を江陽グランドホテルにて行いました。

雪が舞い散る中、50 名を超える多くの先生方にご臨席賜り、心より感謝いたしております。また、本会を開催するに当たり、東北大学医学部医学科同窓会、東北大学医学部後援会、東北大学学生会及び辛酉会など多方面からのご寄付を頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。私どもは本当に多くの人に支えられてきたのだと改めて感じました。



そして、山本 雅之医学部長から「泰山北斗がごとく、目標、座標軸となるような医師、研究者を目指してください」と祝辞を頂き、先生方の高い志を感じました。

引き続き、里見 進病院

長からは「真のエリートたれ」とプロフェッショナルとしての誇り高さを感じるお言葉を頂戴しました。

また、歓談の時間では先生方から、素直さ、思いやりなどを大切に臨床研修に臨んでくださいとお声をかけて下さり、私達の目標となる素晴らしい先生方とお時間を共有できたことを光栄に思います。午後 8 時に、先生方への花束贈呈を行い無事閉会しました。



思い出に残る素晴らしい会を開催できたことを嬉しく思います。私達はこの東北大学で得た多くの財産を生かすべく、日々邁進していく所存でございます。

最後になりましたが、ご協力いただいた各関係者の方々へのお礼を申し上げ、謝恩会の報告を終わらせていただきます。



医学部保健学科謝恩会の報告

保健学科検査技術科学専攻

卒業生代表 **佐久 拓弥**

平成 20 年度（平成 21 年 3 月）医学部保健学科卒業の謝恩会を、次のとおり開催しましたので報告いたします。

★日 時 平成 21 年 3 月 25 日（水） 午後 7 時～午後 9 時

★場 所 ホテル仙台プラザ

★内 容 卒業生代表挨拶

医学部長・医学系研究科長 山本 雅之先生 御挨拶
保健学科長 吉沢 豊子先生 乾杯

看護学専攻主任、放射線技術科学専攻主任、検査技術科学専攻主任の各先生から お祝いの言葉

花束贈呈

集合写真

謝恩会実行委員長の挨拶

★感 想

雪という悪天候にも関わらず、多くの先生方にお越しいただきまして、大変うれしく思います。

終始話し声が絶えない、保健学科学生として先生方と交流できる最後の機会にふさわしい、非常に有意義な時間を提供できたのではないかと考えています。



入学記念祝賀会について

後援会主催の本年度最初の事業として、平成 21 年 4 月医学部に御入学されました保護者と新入生を対象とした「入学記念祝賀会」を、去る 4 月 7 日（火）午後 2 時からホテルメトロポリタン仙台において開催いたしました。

最初に、山本 雅之医学部長の挨拶、財団法人辛酉会の平 則夫理事長から来賓祝辞をいただき、舟山 真人後援会会長挨拶の後、大友 弘美後援会副会長による乾杯の御発声の後、入学祝賀パーティが賑々しく開催されました。

その後、柴原医学科長及び吉沢保健学科長から、学科の説明と歓迎のスピーチ、医学科教授及び保健学科教授によるキャリアパス説明などの企画が行われ大好評で、140 名を超える

参加者（保護者：62 名、新入生：42 名、大学関係者など：32 名、在学生：7 名）との楽しい歓談・懇親の 2 時間が瞬く間に過ぎたように思えます。

また、御参加いただきました保護者や新入生などの皆様から本当に温かな言葉をいただくことができ、大学関係者や在学生との交流ができました。

後援会としては、今後も毎年企画して保護者と大学間の交流事業の一環として継続して実施して行きたいと思っております。

会員の皆様の温かい御支援をいただきますよう、今後もしろしくお願い申し上げます。

医学部後援会・事務局



編集後記

東北大学医学部後援会幹事

齋藤 秀光



医学部後援会は発足しまして 2 年目を迎え、後援会会報第 3 号を発行することになりました。医学部後援会として、本年度は既に医学部入学記念祝賀会を主催し、多数の新入生並びに保護者の方々にご参加していただきました。

また、新入生オリエンテーション後に行われました医学科でのアドバイザーとの懇談会や保健学科でのチューターとの懇談会への助成も行いました。

今後、高校時代までとは環境が大きく変わった新入生の皆さんが、学生生活において独りでは解決できない悩み事などが生じた場合には、早めにアドバイザーやチューターに相談できることを切に願っております。

本年度のこれからの事業計画としましては、年 2 回の後援会会報の発行、医学部学生のクラブ活動支援、医学部教育に

要する備品などへの補充、医学部学生に係る講演会や卒業謝恩会への助成、他に、オープンキャンパスへの助成などを予定しております。在校生の学生生活を支援し、また、世界に向けて情報発信し、魅力あふれた東北大学医学部をアピールすることの一助になればと思います。

医学部後援会は、東北大学医学部在校生の保護者の会で、皆様から納入いただきました会費を基にしております。医学部後援会の更なる発展のために尽力して参りたいと思いますので、会員の皆様からのご意見やご要望などをお待ちしております。是非、医学部後援会事務局宛まで、ご郵送や電子メールでも結構ですので、ご寄稿くださいますようよろしくお願いいたします。



東北大学医学部後援会事務局

〒 980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1
TEL : 022-717-7870 E-mail : med-koen@med.tohoku.ac.jp
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>